

# 城山エコミュージアム通信

平成27年(2015)9.15 第25号



エコミュージアムとは、エコロジー(生態学)とミュージアム(博物館)の造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方の下に、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。相模原市城山エコミュージアムは、地域住民主体の活動により資料収集・調査等を行い、資料を現地において保存し、展示し、広く活用することを目的として活動しています。

## 城山夏まつり



# お囃子競演



8月27・28日「城山夏まつり」が行われました。しろやまの各地区には囃子連があり、日ごろから囃子の練習に力を入れています。その一番の晴れ舞台がこの城山夏まつりです。

27日

27日は3基の神輿が一日かけて地域内9か所の御旅所を巡行しました。神輿のほかにも、2日間各地区をそれぞれの山車が巡り、お囃子の音は祭りの間中間こえないときはありません。久保沢交差点付近と城山総合事務所付近の2か所に久保澤・向原・谷ヶ原・都畑・若葉台の5基が集まり演奏、原宿・町屋・小松・春日の山車4基は川尻八幡宮駐車場に集まり演奏し、勇壮な神輿渡御の興奮をお囃子でなお一層盛り上げました。

28日



28日は川尻八幡宮境内には夜店が出て、舞台では歌謡ショーなどが行われましたが、暗くなりつつある午後6時ごろからお囃子の山車は順にもみじホール城山駐車場に集結、お囃子を奏でましたが、午後8時近く、夜空に大きな花火がいくつも打ち上げられた後は、お囃子競演会となりました。まずは原宿・谷ヶ原・久保澤・春日・都畑・町屋・向原・小松・若葉台の順に各山車が演じ、終盤には全9基による合同囃子演奏が行われました。各山車の演奏に際して、演者の紹介や囃子連の抱負などのアナウンスがあり、演奏や踊りにもそれぞれの囃子連の特徴が伺えました。また、9基合同の熱の入った囃子は賑やか華やかで、祭りの終盤を飾るにふさわしい素晴らしいものでした。夏まつりが終わると一気に秋。今年も病や災いから守られて実りの秋を迎えられることでしょう。

(田畑 房枝)



今回のトピック 伝統芸能ピックアップ「城山夏まつり・お囃子競演」  
エコミュージアムツアー紹介 城山探訪「草競馬の思い出」等



テーマ：久保沢～中沢の歴史と人を訪ねる「街道筋に育まれた文化」

開催日時：平成27年10月24日（土）午前9時～午後4時



川尻小学校校歌歌碑

市立川尻小学校・相模丘中学校校歌の作詞をした人物をご存知ですか？校歌を作詞したのは、川尻小学校出身の流行作家加藤武雄です。川尻小学校校庭には歌碑（左図）が建っており、その横には同校出身の詩人・八木重吉の詩碑があります。

久保沢～中沢地域は、俳人、歌人、書家、作家、郷土史家等、古くから数多くの文人・芸術家を輩出、著名人との交流がありました。今回はこれらの人物を育んだ地域の環境、歴史と文化について、「街道筋」というキーワードに着目したツアーです。また、この地域に根ざす祭り（三嶋神社例大祭は8月23日。中澤囃子連が活躍）

や信仰を集める寺社の紹介もします。距離はおよそ4,5km。運営委員会に参加するメンバーが、すべて手作りで企画・運営するガイド説明付のツアーです。皆様のご参加をお待ちしています。当日の様子は次号にて報告します。（田畑 房枝）

日時：平成27年10月24日（土）午前9時～午後4時

雨天の場合は、10月25日（日）に順延

対象：小学生以上（ただし、小学生は保護者同伴）

定員：40名（申込順）

参加費：500円（当日集金）

持ち物：歩きやすい服装、昼食、飲み物、雨具、保険証、筆記用具、帰りのバス代（城山高校前バス停から）

申込先：相模原市立城山公民館

電話 042-783-8194 または、直接窓口へ



地域の養蚕に関わっていた方から伺ったお話を掲載する連載コーナー

### 第3回 「蚕の病気」

さいとう としお

齋藤 敏男さん（元養蚕組合長）へのインタビューから

前回にもお話ししたように、蚕の飼育で難しいところのひとつは卵からかえったばかりの毛蚕（けご）を育てることであった。

毛蚕は体が小さいので、蚕座紙に移動させるのにも鳥の毛の箒で掃きたてるなど細心の注意を払っていた。また、周囲の環境に影響を受けやすく、特に温度、湿度の管理が難しかった。

蚕の病気も飼育の中では難しく悩ましいもので、特に硬化病（カビの感染）と軟化病（ウィルス感染）が大きな問題であった。

軟化病は糞を介して蚕座内に広がる心配があり、養蚕を始めるにあたって、部屋をまずホルマリンガスで消毒して予防した。死んだ蚕がミイラのように硬くなる硬化病は5齢ごろに発症し、多大な被害をもたらした。蚕が繭を作っても繭の中で病気を発症することもあり、柔らかすぎる繭になったものは売り物にならなかった。そこまで大切に育ててきたので生産農家の落胆も大きかった。硬化病は多湿になると発生しやすいことから、蚕の上から石灰をかけて予防していた。また、桑づくりの時に施す肥料に窒素が多すぎると起こりやすいため、施肥に注意を払っていた。（山口 雅之）

シリーズ

養蚕





# 活動レポート

6/20  
開催

## しろやま里山探検隊ホタル観察会



晴天に恵まれ観察できました

6月20日城山公民館「しろやま里山探検隊」のホタル観察会が開催されガイドとして自然部会のメンバーが参加しました。まず城北自治会館でホタルについて学習をした後、実際に穴川のふれあい水路まで歩きました。暗くなるとたくさんのホタルが飛び交い、感動的な観察会になりました。まとめの会では子どもたちから感想や学んだことなど活発な発言があり、地域の貴重な環境を知ってもらったことをうれしく思いました。(田畑房枝)

知ってナットク!  
しろやま



問題 玄関の飾り物、これ何?



アリの巣

カミキリムシの巣

ハチの巣

(出題者: 齋藤 雄也)

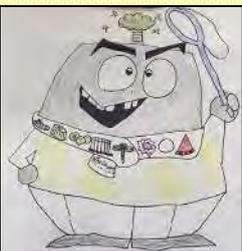
8/4  
開催

## 大地連携ワークショップガイド協力



龍籠山からの眺望を紹介

8月4日、今年も大地連携ワークショップに地元講師として参加し、大学生18名と大学関係者とともに、城山湖周辺のハイキングおよび解説を行いました。最終日に行われた発表会では、学生たちが考えた新キャラ「クロヤマン」が誕生(?)し、会としても実りのある時間となりました。(齋藤 雄也)



クロヤマン

8/8  
開催

## 子ども自然体験教室



小松川で水生生物を調べました

8月8日自然部会は今年も公民館事業の自然観察会に講師として参加しました。子ども達は昨年も参加した2名を含め5名と少なめでしたが、中央公園～小松～自然の家まで、のんびり観察しながら歩きました。水質調査をして笹舟を流し、水生生物採集。生物の名前を確認しながら川について学習したり野菜のクイズをするなど盛りだくさんの半日でしたが、子ども達はとても生き生きとしていて楽しそうでした。(金子 直美)



市立相模丘中学校の校庭が競馬場だった頃がありました。競馬場が造られたのは昭和10年前後だったと思いますが定かではありません。当時は昭和6年に満州事変が起こり、同12年に支那事変が始まろうとしていた頃でした。その頃はまだ人や物の移動は馬に頼る事が多かったので、戦争が次第に大きくなると見越したのか当時の陸軍は軍馬に徴用出来るよう農村に馬を飼わせる政策を取りました。同時に競馬場などを造らせて、馬に関心を持たせようとしたのでしょう。これに答えたのか川尻村でも競馬場を造って4月10日に競馬会を開くようにしました。数年後中沢の普門寺にも馬場を作りました。寺の前に今も残る丸い道路がその名残です。普門寺では裏山に在る「ゆづなさん」(飯綱神社)が昭和15年4月14日に60年目の御開帳に当たったので、力を入れて競馬会を開きました。祖父の日記によると、その日の出場馬数は80頭でした。他にも、津久井の寺沢の雲居寺には鉄砲馬場といって古くから賑やかに競馬が行われていました。また、原宿でもあの真っ直ぐな道を馬が駆けたという話が残っていますが、まだ車が走り始める以前の話だったことでしょう。(画・文：八木 薫)



### しろやま ミニ図鑑

### ハイイロチョッキリ (オトシブミ科チョッキリ亜科)



参考：南大沢の自然  
(ホームページ)

夏の雑木林に、葉を3、4枚付け、切り口がスパッと切れたドングリの小枝が落ちているのを見たことはありませんか？これはハイイロチョッキリという虫の仕業です。ドングリの付け根をよく見ると小さな穴があり、穴の奥には卵が1個産み付けられています。親虫がドングリに穴を開けてから枝を切り落とすまで、3時間以上もかかる大仕事です。卵からかえった幼虫はドングリの中身を食べて成長し、秋には外に出て土に潜り、さなぎで越冬します。(画・文 多羽田 啓子)

### 城山検定 解説

答え：スズメバチの巣

古いお宅にお伺いすると、縁起物として玄関に立派な蜂の巣が飾られていることがあります。その理由は定かではありませんが、たくさんのハチの出入りから「商売繁盛」、巣内の繁栄ぶりから「子孫繁栄」、立派な巣は高く広い場所がないとできないことから「財力の象徴」など諸説あるそうです。

9月～10月半ばはスズメバチの活動が活発になります。ウォーキングなどをする際は、黒い服、香水を避けて外出しましょう。(齋藤 雄也)

次号は12月15日頃発行予定です



### 編集後記

夏になると祭囃子が聞こえ地域の人々の手であちこちの神社のお祭りが催されます。トリは川尻八幡宮の例大祭でしょうか。地域の結びつきが強く感じられる時です。今回も城山らしい記事を掲載しました。(田畑 房枝)

企画/作成：相模原市城山エコミュージアム運営委員会

発行：相模原市立城山公民館

TEL：042-783-8194【直通】

FAX：042-783-1721

ホームページをパソコンで見るとは

相模原市 城山エコミュージアム

検索

相模原市立城山公民館ホームページ

<http://www.sagamihara-kng.ed.jp/kouminkan/shiroyama-k/index.html>

